

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		豊かな人間性や高い志を育てることを基本に据え、ひとり一人の生徒の可能性を引き出し、学力の伸長と進路希望の実現を図る。
(2)	育みたい 児童生徒像	○知識を得る喜びと思考や表現への意欲を喚起する魅力ある授業によって、すべての生徒が主体的・協働的に学ぶ楽しさを高めあっている姿。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などを主体的に取り組み、それらを通じて感性、人権意識、他者への思いやり、忍耐力、向上心など、豊かな人間性と将来の社会に貢献できる高い志を得ようとしている姿。
	ありたい 教職員像	○豊かな人間性や高い志を備えた生徒たちの個に応じた進路希望の実現に努力し続け、また自らも学び続ける教職員集団。 ○地域及び家庭との連携を積極的に図り、社会からの信頼を築いていこうと努力し続ける教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> ○学習活動及び特別活動を通じて、充実した学校生活と進路希望の実現。</p> <p><家庭> ○様々な教育活動のさらなる充実とそれらを通じた子どもの学力向上と進路希望の実現。</p> <p><地域> ○地域の諸行事への生徒の積極的な参加による地域の活性化と同時に、それらを通じた「未来の地域のリーダー」育成を目指した教育活動の推進。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭> ○子どもの様子や進路情報等積極的な情報の発信。</p> <p><中学校> ○卒業生の様子や本校の教育活動、高校入試情報等積極的な情報の発信。</p> <p><地域> ○地域活性化のための諸行事への積極的な学校（生徒・教職員）の参加。施設開放。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> ○本校教育活動への理解と協力。基本的な生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p><中学校> ○基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立。継続的かつ効果的な指導のための個々の生徒の情報共有。</p> <p><地域> ○本校教育活動への理解と協力、特に外部教育力の提供。様々な媒体での本校教育活動の発信。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○より良い授業改善への課題のひとつとして、OJTがあげられる。ベテランと若手という関係に限らず、研修や授業見学等を通じて教職員のスキルアップを目指してほしい。</p> <p>○大学、中学校、保護者、行政等地域の外部教育力を使った取組は、生徒に授業のみでは身につかない大きな力となり、視野を拓けることにつながるの明らかである。今後とも様々な機会を通じて連携を深めてほしい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○勉強だけでなく、部活動・行事等教育活動全般にわたって、まじめに取り組む生徒が多い。教員の面談スキル、生徒同士の協働性を高めることで、人間関係等に悩む生徒の増加傾向及び校内美化・交通安全・防災・SNS対応・人権、命の教育等への意識を向上させる必要がある。</p> <p>○多様な生徒に対し「不易流行」に則り、生徒の実態の的確な把握・効果的な指導改善を行っている。最新の教育情報を取り入れ、授業力向上を図るとともに、生徒の主体的・探究的学習習慣向上を図る取組をさらに推進する必要がある。</p>	

学校 運営等	○学年・分掌内で各自の役割に責任をもって業務に取り組んでいる。学年・分掌の連携、防災、地域や保護者とのより強い連携を一層推進する必要がある。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○豊かな人間性と高い志の育成 キャリア教育や教育相談体制を充実させるとともに、部活動や特別活動等のさらなる活性化や人権教育推進を図りながら、知・徳・体の調和のとれた21世紀の社会を生き抜く力と志を持った生徒の育成に取り組む。</p> <p>○学力の向上 生徒の学力層やひとり一人の状況に応じた、よりきめ細やかで効果的な学力向上策を構築する。</p>
学校運営等	<p>○学力の向上 教育改革や新たな大学入試、新教育課程に対応し、教員の授業力や進路指導力向上のために、授業公開・協議や研修会等を充実させるとともに、OJT等によるスキル向上に取り組む。</p> <p>○組織力の向上 安全安心な学習環境を構築し、学年・分掌が連携して効果的に目標を達成するために、常に「全体最適」かつ「生徒第一」の視点で取組を行い、検証する。 また、防災教育、郷土教育、社会貢献の視点も含め、保護者・地域連携を行い、より地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の充実 (生徒ひとり一人の希望進路の実現)	<p>1) 初期指導の充実を目指し、「学習のてびき」をもとに3年間の進路ストーリーを示すとともに、発達段階に合わせた進路講話・進路講演会を効果的に実施し、高度な学問への夢を引き出せるよう取り組む。</p> <p>2) 個人面談の充実、部活動・特別活動・大学オープンキャンパスへの積極的な参加や課外授業への受講奨励など、進路カウンセリングをすすめることにより、希望進路の実現、将来の社会貢献のための真の学力向上を図る。</p> <p>【活動指標】各学年年6回の個人面談の実施、定期的な進路説明会・講演会の実施。</p> <p>【成果指標】生徒の高校生活全般への満足度90%</p>	<p>○「進路指導年間行事計画」に基づいた進路行事等を中心に、各学年単位やクラス単位でもキャリア教育をすすめることができた。</p> <p>○各学年6回の個人面談、全体(生徒・保護者対象)で計21回の説明会・講話・講演会の実施</p> <p>【生徒の高校生活全般の満足度86.5%】</p>	◎
学習指導の充実	<p>1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業により、将来にわたって通用する学力の向上を図る。</p> <p>2) 「予習→授業→復習」の学習サイクルに基づいた学校(授業)中心の学習習慣を定着させるよう取り組む。</p> <p>3) 生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【活動指標】生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【成果指標】生徒の授業への理解満足度90%</p>	<p>○教職員の「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善への取組は、生徒の主体的な授業参加に好影響を与えている。</p> <p>【生徒の授業への理解満足度81.6%】</p>	◎ ※

<p>豊かな人間性と高い志の育成</p>	<p>1) 自他の命の大切さについて様々な機会に触れ、いじめのない安全安心な学校生活を営むことができるよう取り組む。また、マナーや挨拶・服装指導を通じて、社会人としての品性を身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】各学期のいじめに関するアンケートの実施</p> <p>2) 「NOLTY スコラ (手帳)」を積極的に活用することで、学習時間と部活動等を軸とする生活リズムの確立と自己管理能力の育成を図る。</p> <p>3) 外部教育力を積極的に取り入れ、外部機関との連携による「ホンモノ体験・本気体験」を通じて、地域で活躍する大人の志や高い専門性に触れることにより、より広い視野を身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】学校外における各種学習会研修会、行事への参加</p> <p>【成果指標】参加生徒人数100名</p>	<p>○様々な機会を通じて、「自己肯定感を高め、他者を尊重し協働する」ことを目指した取組により、いじめのない落ち着いた学習環境が保たれつつある。</p> <p>○のべ30回を超える「ホンモノ体験」により、参加生徒には授業だけでは得られない広い視野と、大人との議論の中で主体性・問題発見解決力・協働性等を伸ばすことができた。</p> <p>【「ホンモノ体験」参加生徒数のべ400人】</p>	<p>◎ ※</p>
----------------------	---	--	----------------

改善課題

「3年後、30年後を生き抜く力を身につける」ことを目指したさまざまな取組により、落ち着いた学習環境の中、生徒の主体性・論理的思考力・協働性・表現力などを伸ばすことができた。次のステップとして、「カリキュラムマネジメント」に基づき、それぞれの取組のより高い精度・効果を求めつつ、授業を中心とする教科学習活動だけでなく、部活動や特別活動においてもキャリア教育の視点を意識した取組をすすめる必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>組織力の向上</p>	<p>1) 積極的な情報共有のもと、ひとり一人の生徒に合わせた組織的な進路指導を推進する。</p> <p>2) 生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、全職員の共通認識を図り、職員が一丸となって取り組むことのできる体制をつくる。</p> <p>【活動指標】職員会議を中心に、各委員会・各学年会・各分掌会での積極的な情報共有</p> <p>【成果指標】職員の情報共有に対する満足度75%</p>	<p>○進路指導のみならず、各種会議での情報共有、意思疎通により、組織的な取組はすすみつつある。特に教育相談担当・特別支援教育コーディネーターらを中心とした配慮や支援が必要な生徒の情報の素早い共有はすすみつつある。</p> <p>【職員の情報共有に対する満足度46%】</p>	<p>◎</p>

専門性の向上	<p>1) カウンセリング・コーチング等に焦点をあてた現職教育を実施し、「命の教育」や面談に活かすことのできる教育相談専門性の向上を図る。</p> <p>2) 新学習指導要領への対応をも意識した「カリキュラムマネジメント」を整備活用することにより、各教科で授業改善に向けて取り組み教科専門性の向上を図る。</p> <p>3) 高大接続、大学入試制度改革等の情報を積極的に集め、また現職教育や校外研修に積極的に参加し、学習指導・進路指導・生徒指導等の専門性の向上を図る。</p> <p>【活動指標】 各種現職教育の実施、校外研修への参加</p> <p>【成果指標】 職員の専門性向上への満足度90%</p>	<p>○校内現職教育、各種校外研修会への参加により、幅広い情報や知識が集められ、教職員の専門性が高められ、生徒への指導や対応に活かされている。</p> <p>【職員の専門性向上への満足度校内77%、校外65%】</p>	◎
働きやすい職場環境づくり	<p>1) チームで仕事を分け合える体制づくりをすすめるとともに、職務内容や会議の精選等を行う。</p> <p>2) 月に一度の定時退校日、週に一度の部活動OFF日を設定し、総勤務時間の縮減を図る。</p> <p>【活動指標】 月に一度の定時退校日、週に一度の部活動OFF日の実施</p> <p>【成果指標】 全教職員総勤務時間数前年比5%減</p>	<p>○月に一度の定時退校日、週に一度の部活動OFF日の設定により、総勤務時間の縮減を目指そうとする意識は高められつつある。</p> <p>【全教職員総勤務時間数前年比2%減】</p>	◎ ※

改善課題

「3年後、30年後を生き抜く力」の育成を目指した取組に対する教職員の意識は高く、生徒一人ひとりを大切にしたいきめの細かいさまざまな指導は、高い志を持った生徒の育成に確実に結びついている。しかしその反面、多様な生徒に寄り添うことで様々な指導に費やす時間は長く、総勤務時間数の縮減も小幅なものとなった。

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<p>「ホンモノ体験」として行っている企画に対する高い評価をいただいた。学校が変わってきている姿は大いに感じる。生徒が考え、まとめ、伝える力をつけてきている。今後はフロントランナーとして四日市から三重県全体に取り組みを進めるとともに、先生たちにも生徒の姿をもっと見てもらうことでさらに進んだ組織としての取り組みまで発展させることを期待したい。</p>
--------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>新共通テスト、新学習指導要領に対する対策は出そろっている。今後はコンテンツを具体的な実践に移していく段階に来ている。また、教育評価の部分がまだ不十分なままなので来年度は評価と21世紀型リーダーシップ教育の実践に歩を進めたい。また、外部連携についても継続性に課題があるのでさらにコミュニケーションを深めて生徒にいい材料を提供できるようにしたい。</p>
学校運営についての改善策	<p>それぞれの実践については満足できる歩みを進めているが、時間が限られている中でフロントランナーとしての取り組みを行っているため個人力に頼っている部分は否めない。継続性の問題からも今後はこの実践を組織化していくことが求められる。</p>